

包摂性のある社会を目指し、 障がい者の活躍を支援



障がい者雇用の課題と 解決への取り組み

インテックは、2021年度から始まった第19次中期経営計画の基本コンセプトとして、社員1人ひとりが「デジタル社会の一翼を担うことを自覚し、ITを駆使して、豊かな未来の実現に貢献する」ことを掲げています。また、ダイバーシティ&インクルージョン方針として、多様な人材が自分らしさを発揮し活躍できるよう、社員1人ひとりのライフスタイルに合った働きがいのある企業を目指しています。

その中で障害者雇用促進法に規定される法定障害者雇用率を超える雇用を維持していますが、障がい者の就労と社内教育において、以下の課題が顕在化しました。

- ・上司や同僚が障がいに関する基礎知識が少ないため、障がい者社員とうまく接することができない。
- ・障がい者社員自身、自分の障がいの状態を誰にどこまで話すべきか悩むことがある。
- ・障がい者本人の適性、能力に合った業務を与えることができない。

インテックでは、すべての人が公平であるという「職場の合理的配慮」を社内に浸透させることが肝要だと考え、一緒に働く社員に障がい者の基礎知識や障がい者の就労実態の社内研修を行っています。ある部門では聴覚障がい者の新人配属時に、健常者の先輩社員が手話で自己紹介するなど、障がい者の気持ちに寄り添い、お互いが仲間としての自覚をもてるような取り組みを実践しています。

また、業務課題のいくつかはITを活用したコミュニケーションツールで解決できると考え、聴覚障がい者の社員には音声認識会話支援アプリ、視覚障がい者の社員には音声読み上げソフトや点字ディスプレイなどを積極的に取り入れています。

視覚障がいのある社員が 講師として活躍

インテックは社外でもITを活用し、障がい者ができることを増やし、やりたいことを実現する取り組みを行っています。2022年11月19日(土)、富山県立大学で実施された視覚障がい児童生徒向けのワークショップ「科学ヘジャンプ・イン・北陸^{*1}」に、インテックの視覚障がい者社員らが参加し、メタバース^{*2}でVTuber^{*3}やカラオケを体験できる講義を行いました。

既存のメタバースプラットフォームと立体音響を用いることで、目が見えなくてもVR空間を体感できるデモを実施し、参加した子どもたちに新しい可能性を示しました。子どもたちからは「楽しくて興奮した」「将来は技術者を目指したい」という声が上がったほか、保護者の方からは「子どもが積極的に取り組む姿を見て嬉しい」「子どもにどのような教育機会、環境を整えるか参考になった」などの感謝の言葉をいただきました。

また、イベント終了後にもホームページに保護者の方から以下のメッセージが届きました。

「とても良かったのは視覚障がい者の社員が生き生きと働いておられる姿でした。ITに強ければ障がい者でも仕事として選択肢の1つになるのだと思いました。これからのIT



「科学ヘジャンプ・イン・北陸2022」でのメタバース、VR体験の講義の様子

は、いろいろな障がい者にとって助かる技術をまだまだ作ってくれるのではないかと思います。障がい児を持つ親としては子どもが取り残されない世の中であってほしいと強く願っています」

このような期待の言葉を真摯に受け止め、インテックは誰もが活躍できる公平で包摂性のある社会を目指します。今後もITを使った新たな価値創造に挑戦し、パートナー企業や学校、行政と協力しながら、就労(ワーク・エンゲージメント向上、職場環境整備など)やコミュニケーション、教育などの身近な課題解決に取り組んでいきたいと考えています。

*人や人の状態を表す場合はひらがな表記の「障がい」とし、法令や条例等を表す場合は漢字表記の「障害」としています。

*1 科学ヘジャンプ・イン・北陸
開催概要はこちら
<http://www.hokuriku-jump2science.org/active/>

*2 メタバース
コンピュータの中に構築された3次元の仮想空間やそのサービスのこと。

*3 VTuber
バーチャルYouTuberのことで、主にインターネットやメディアで活動する2DCGや3DCGで描画されたキャラクターもしくはそれらを用いて動画投稿・生放送を行う配信者の総称のこと。



「科学ヘジャンプ・イン・北陸2022」参加者との記念の集合写真(一部の方々の顔を修正させていただきました)